

中心市街地の活性化に向けた 富山駅周辺整備を

～ 駅周辺整備を起爆剤に「まちなか」に賑わいを～

提 言

平成16年9月

富山経済同友会
地域活性化委員会

はじめに

北陸新幹線は「上越 - 富山」間がフル規格の整備区間となり、2013 年春には富山開業が予定されており、開業時期の前倒しも検討されている。

富山駅では北陸新幹線開業に向けての在来線高架化に加え、駅北にあるJR富山港線の路面電車化が2年後の 2006 年に予定されている。これにともない県や市などを中心に富山港線と既存路面電車との接続が検討され、あわせて富山駅を中心とした周辺整備計画が現在着々と進行中である。

しかしながら、新幹線開業により東京への依存度が増し、ストロー現象が進行するという危険もはらんでいる。新幹線開業が富山の発展に結びつくか否かは、富山県の県都であり、北陸の中核都市でもある富山市が、将来も「魅力ある都市」として輝き続けられるか否かにかかっている。

中心市街地の衰退は、全国の地方都市で見られる現象であるが、富山市においても例外ではない。新幹線開業にともなう富山駅周辺整備をきっかけに、いわゆる「まちなか」に賑わいを取り戻すことは、今後も「魅力ある都市」として、都市間競争を勝ち抜いていくための必要不可欠な条件といえる。

そうした意味で新幹線開業までの 10 年間のまちづくりは、21 世紀の富山県の浮沈を左右する最も重要な事業であると考えられる。

すでに富山市や富山商工会議所等からもさまざまな構想や提言が示されているが、富山経済同友会地域活性化委員会では、富山駅を含む中心市街地が一体となって、富山市の「まちなか」に賑わいを取り戻し、富山県の玄関口としてふさわしいものとなるよう、富山駅周辺整備にともなうまちづくりについて、関係各方面への要望・提案を取りまとめることとした。

行政・関係各方面への要望・提案

富山駅周辺整備が中心市街地の活性化にも結びつき、「まちなか」の賑わい復活にもつながるとともに、富山駅および周辺地区が交通結節点として、また県都富山市の玄関口としてふさわしいものとなるよう、行政および関係各方面には以下の事項について、検討・取り組みをお願いしたい。

1. 整備計画の前倒し実施

国の予算措置を待つのではなく、富山駅周辺整備については可能なものから着手し、早期に実効をあげるため、新たな金融手法により資金調達を行い、前倒しで計画を実行に移す。これによりまちづくりへの住民の参加意識を高めるとともに、民間活力を喚起し経済波及効果も狙う。

(1) 「とやままちづくり債」(ミニ公募債)の発行

対象事業を富山駅周辺整備および中心市街地のまちづくりに限定した「とやままちづくり債」を県および市で発行し、広く住民に募集する。

(2) PFIによる民間ノウハウの活用

公共施設等の建設・運営にあたっては、民間の資金・技術・経営ノウハウを活用したPFIの利用を検討する。

2. 都心居住の促進

都心部の人口減少と住民の高齢化が今後も進むことが見込まれるので、富山駅周辺地区の利便性をさらに向上させることにより、中心市街地を含む都心居住の促進を図る。

(1) 税制等による中心市街地居住者への優遇措置の導入

用途に応じた固定資産税の軽減(住宅・商店等)と加算(遊休地、低度利用地等)

空きオフィスの住宅転用に対する固定資産税軽減や費用補助

(2) 優良賃貸住宅等や長期間空き店舗の入居者への家賃補助

(3) 小学校の統廃合にともなうグラウンド等空地の新しいタイプの住宅地への転用

公園やミニ農園を併設した住宅

高齢者向け施設や託児所を併設した住宅

(4) 新たな公共施設等の中心市街地への設置・誘致

図書館、生涯学習施設、大学のサテライト講座、託児所

駅前広場等を活用したミニ・ライブ・シアター(無料かつ自由に利用可

能)

かかりつけの医院が集まった医療村(ミニ病院、例 上飯野医療村)

3. 人の移動性向上

富山駅、駅北地区、城址公園、中心商業地とのつながりを新たな交通手段の選択・組み合わせにより確保し、人の移動性を高める。

- (1) 路面電車旧路線の復活(環状線、山室線)および新路線の敷設
- (2) 「動く歩道(アクセルライナー)」の城址大通りへの設置
- (3) 無料または低額シャトルバス・タクシーの導入

4. 鉄道沿線中心の住宅地開発

新たな住宅地開発は民間資本も活用し、既に生活インフラが整っている富山港線・路面電車、地鉄、JRの沿線中心に行い、これまでの郊外車道沿線中心型の開発からの転換を図るとともに、交流人口の増加を目指す。

5. 駅南・駅北の格差是正

富山駅南側に比べ北側は遊休地や駐車場が点在し、土地の有効利用が進んでおらず、地価等においても格差が生じているため、一体的な土地利用を推進し、南北格差の是正を図る。

6. 機能性の高い駅前広場整備

路面電車やバス、タクシー、マイカー等と鉄道との交通結節点として、歩行者や自転車利用者にも配慮した機能性の高い駅前広場の整備を図る。

7. 公共交通の利用促進

路面電車を含む公共交通について利用促進を図り、現状の著しいマイカー中心の交通体系から、環境にもやさしく、車と公共交通との調和が取れた交通体系への転換を目指す。

- (1) ルートやダイヤの見直し
- (2) 低床、小型、省エネルギー車両の導入

8. 「富山らしさ」をもつ駅舎

駅舎デザイン・外観・内装は、富山を連想させるもの(海、山、川、水、魚、木、自然、薬など)でテーマ性を持たせ、「富山らしさ」を強調するとともに美的評価も高いものを検討する。

- (1) 大型パネル画面による立山ライブ映像の駅構内での放映
- (2) 雨水や地下水利用によるせせらぎ空間の創出
- (3) 富山産木材をふんだんに使用した内外装

(4) 木漏れ日がさす木立のある広場

9. 高架下空間の有効利用

歩行者ネットワークの形成による賑わい空間を創出するため、富山駅高架下空間に南北自由通路のほか、名産品店や産直市場等の商業施設を整備する。

10. 駅舎施設の充実

新幹線開業にともない「東京 - 富山」間の移動が航空機から鉄道利用にシフトし、富山駅の利用が大幅に増加することが予想されるので、現状空港にあるような施設(駐車場、待合室、飲食店・物販店など)のほか観光案内所を駅舎ないし周辺地区に確保する。

. おわりに

少子高齢化と人口減少、市街地拡大にともなう都心空洞化、自動車依存と衰退する公共交通など全国の地方都市が抱える問題は、われわれの県都富山市も例外ではない。

現在、進行中の富山駅周辺整備についても、中心市街地の活性化と切り離して考えるのではなく、将来の富山市全体をどういったコンセプトでどのようにデザインしていくのかという大局的な見方が必要となる。

いうまでもなく、まちづくりは行政や特定の関係者にのみ任される問題ではなく、地元住民、そこで働く就労者、交通事業者、商工業者が一緒になって知恵を絞り、各自が持っている資産を有効活用していくことによって、より効果的な方策を実現することが可能となる。

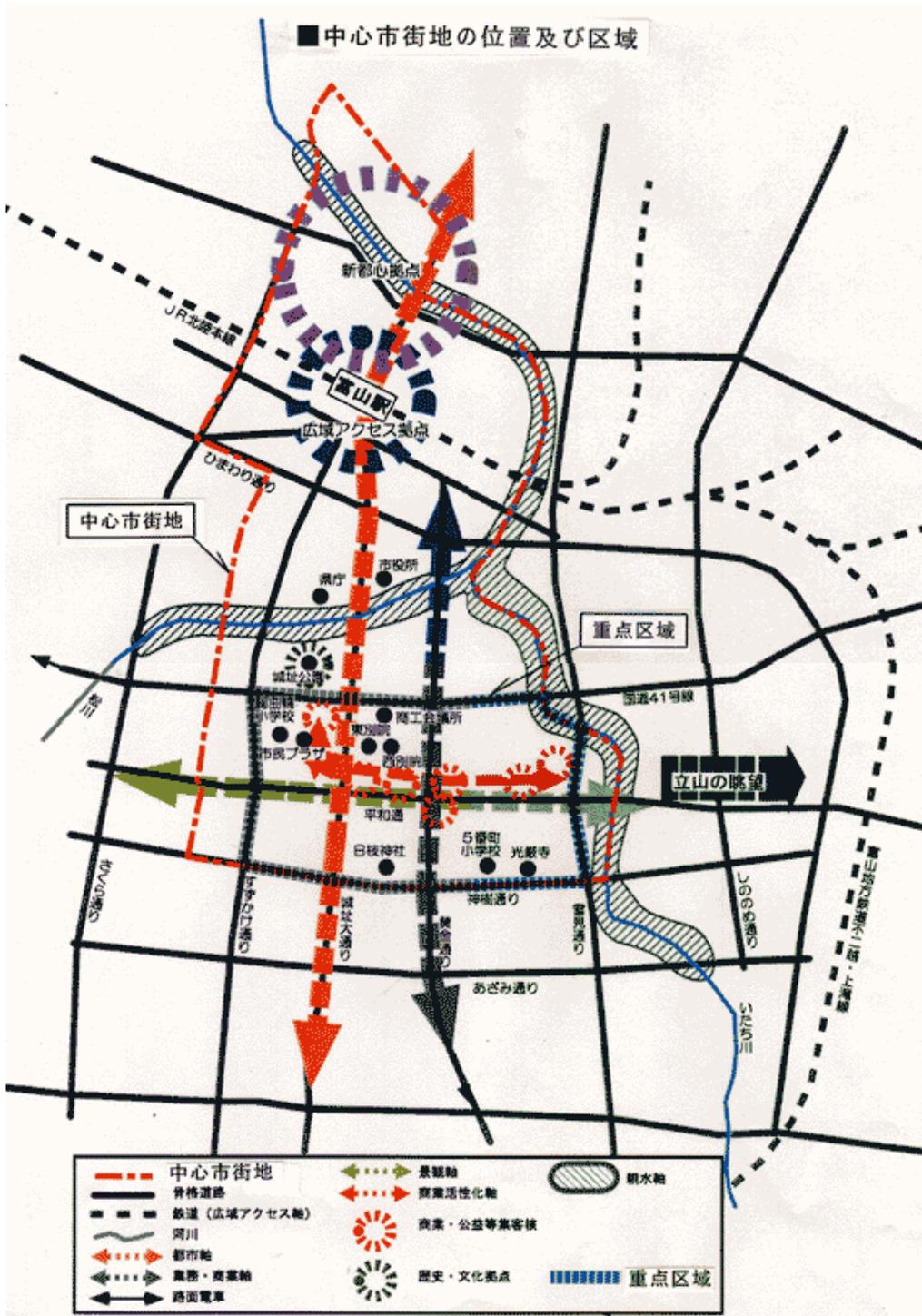
富山駅周辺整備をきっかけに、将来の富山市について関係各方面や住民団体がこれまでも話し合いが行われてきた。しかしながら、各団体がバラバラに活動するのではなく、今後は結束して県都富山市をいかに「魅力ある都市」として維持・発展させていくのかを考えていかねばならない。それには、まちづくり活動を行う団体のネットワーク化が急務になると思われる。

そして、こうした活動が実践されれば、中心市街地活性化について同様な悩みを抱える県内外の市町村に対しても、重要なヒントになり得るのではないだろうか。

以上

富山市による中心市街地の位置および区域(中心市街地活性化基本計画
(平成11年7月)より)

1. 北側境界 - 都心地区の境界線
2. 東側境界 - いたち川
3. 南側境界 - 神樹通り
4. 西側境界 - 商業地域の境界



提言の背景

1. 少子高齢化と人口減少

富山県の人口千人当たりの出生率(平成14年)は 8.9 人(全国平均 9.2 人)、65 歳以上の高齢者比率(平成14年)は、22.0%(全国平均 18.5%)と少子高齢化が全国平均以上のスピードで進んでいる。

また、平成15年には県内人口は 1,117 千人であったが、国立社会保障・人口問題研究所によれば平成 22 年には 1,097 千人、平成 32 年には 1,035 千人、平成 42 年までには 1,000 千人を割り込み、950 千人になると予測している。

2. 市街地拡大にともなう都心空洞化

富山市では人口集中地区が郊外に拡散するとともに、人口集中地区の人口密度は昭和40年の 6,624.0 人/km²に対し平成 12 年には 4,117.1 人/km²にまで低下してきている。

3. 自動車依存と衰退する公共交通

富山県の一世代当たりの自家用車保有台数は、1.71 台(平成14年)(全国第2位、全国平均 1.10 台)である。富山高岡広域都市圏の自動車分担率は 72.2%(平成11年)と近隣の地方都市圏(金沢 59.2%(平成7年)、福井 61.1%(平成11年))と比べ極めて高い数値となっている。富山県は、著しく自動車に依存した地域といえる。

これに対し、JR や地鉄などの利用者は年々減少の一途をたどっており、県内公共交通事業者の経営環境は極めて厳しい。学生、高齢者等の日常の足の確保、まちづくりの推進、道路混雑の緩和の観点からも、公共交通機関の維持・活性化が急務となっている。

地域活性化委員会(平成15・16年度)

(五十音順)

区分	氏名	会社名	役職
委員長	榊田 敬次郎	(株)榊田酒造店	代表取締役社長
副委員長	池田 安隆	(株)池田屋安兵衛商店	代表取締役
副委員長	伊勢 彦信	イセ(株)	代表取締役会長
副委員長	押田 洋治	(株)押田建築設計事務所	取締役社長
副委員長	久郷 隆行	(株)大和	取締役富山店長
副委員長	桑名 博勝	富山地方鉄道(株)	代表取締役社長
副委員長	瀬戸 徹	(株)瀬戸	代表取締役
副委員長	千種 信雄	住友金属工業(株)	北陸支社長
副委員長	濱谷 元一郎	富山商工会議所	専務理事
副委員長	藤田 寛	日本政策投資銀行	富山事務所長
副委員長	村 雄一郎	(有)海老亭	代表取締役
副委員長	山田 方輝	富山交通(株)	代表取締役専務
アドバイザー	稲葉 実	(株)三四建築研究所	代表取締役
委員	四十物 直之	(株)四十物昆布	代表取締役社長
委員	荒井 泰晴	(株)宝来社	代表取締役社長
委員	石動 勇	石動コーキング(株)	代表取締役
委員	市堰 豊	市堰建工(株)	代表取締役社長
委員	市森 武	(株)新日本コンサルタント	代表取締役
委員	伊藤 甚宰	伊藤工業(株)	代表取締役社長
委員	稲垣 一郎	中越バス販売(株)	代表取締役社長
委員	植竹 和	伊藤忠丸紅テクノスチール(株)	北陸支店長
委員	遠藤 忠正	富山交易(株)	取締役社長
委員	大谷 吉治	マンテンホテル(株)	代表取締役社長
委員	大場 輝喜	日本銀行	富山事務所長
委員	奥村 茂	(株)福光屋富山	代表取締役
委員	鍛冶 他八郎	日本海建興(株)	代表取締役社長
委員	亀井 公顯	西日本電信電話(株)	富山支店長
委員	河合 裕子	とやまの四季亭かわい	代表・女将
委員	蔵川 高義	(株)スカイシステム	代表取締役社長
委員	神屋 博	佐藤工業(株)	執行役員北陸支店長
委員	米屋 正治	北星ゴム工業(株)	代表取締役会長
委員	齊藤 隆教	北陸電機製造(株)	代表取締役社長
委員	笹山 和紀	内外薬品(株)	代表取締役社長
委員	白倉 三喜	富山日産自動車(株)	取締役社長
委員	千代 鴻一郎	北陸電力(株)	取締役富山支店長
委員	多賀 善治	(有)高芳	取締役社長
委員	高岸 和男	(有)タカギシ	代表取締役
委員	高島 敏夫	高島コンサルタント(株)	代表取締役社長
委員	高田 耕三	高田食糧(株)	代表取締役会長
委員	高野 亮俊	タカノ建設(株)	代表取締役会長
委員	田口 神酒雄	前田建設工業(株)	執行役員北陸支店長
委員	為井 光章	為井塗装(株)	代表取締役
委員	土田 洋	富山ターミナルビル(株)	代表取締役社長
委員	中村 正孝	(株)ケーブルテレビ富山	専務取締役
委員	中屋 外芳	石川島播磨重工業(株)	北陸支社長
委員	西井 淳	アースコンサル(株)	代表取締役社長
委員	長谷 正克	北日本印刷(株)	代表取締役社長
委員	長谷川 達雄	中央薬品(株)	代表取締役
委員	福島 順二	福鶴酒造(有)	代表取締役社長
委員	藤田 博之	富士通(株)	富山支店長
委員	牧田 和樹	(株)牧田組	代表取締役社長
委員	巻田 安雄	(株)スカイインテック	代表取締役社長
委員	松嶋 重信	大成建設(株)	富山営業所長
委員	松原 吉隆	大同産業(株)	代表取締役社長
委員	安川 涼子	ロザンBICO(株)	代表取締役社長
委員	山田 清治	(株)日新設計	代表取締役所長
委員	吉浦 昭光	協栄薬品(株)	代表取締役社長
委員	吉田 栄一	(有)月世界本舗	取締役社長

(以上58名)